

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600919	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア淵野辺グループホーム		
所在地	(252-0202) 神奈川県相模原市中央区淵野辺本町2 - 19 - 14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年9月30日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

●各フロア2名づつ外国籍のスタッフがいます。慣れない日本文化について入居者の方々から教えてもらったりしている。本人たちも熱心に学び、中核的な存在に育ってきている。●フロアごとに季節の壁飾りなどを工夫している。●夏祭り、敬老会、クリスマス会は1階・2階合同で行い、交流を深めている。●今年100歳の方の誕生会には家族も招いて、手作りケーキやプレゼントをお渡しして全員でお祝いを行いました。●食事は3食とも職員と入居者様で調理・提供しており喜ばれています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月10日	評価機関 評価決定日	令和8年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線「淵野辺」駅よりバス「山王」下車徒歩7分、または同駅から徒歩約20分の県道沿いに位置しています。建物は木造2階建て、2ユニット定員18名のホームです。日当たりの良い全館バリアフリー構造で、明るく安全に過ごせる環境を整えています。

<優れている点>

「尊厳・笑顔・向上心」の理念を日々の朝礼で共有し、一人ひとりに寄り添った笑顔での声掛けと生活支援につなげています。地域交流では、近隣神社の行事参加や小学生による「町たんけん」の受け入れ、また県境の境川まで足を延ばす散歩などを通じ、利用者の社会的な役割や季節感の維持、さらには歩行機能の維持向上といった心身の活性化を支援しています。職員育成においては、年間計画に基づく月例研修に加え、外国人職員が日本の生活文化や調理技術を習得できるよう個別のOJTに注力しています。こうした日々の関わりを通じて、外国人職員が利用者から慕われる関係を築いており、多様な人材が専門性を発揮できる環境を整えています。また、介護福祉士資格の取得に向けた組織的な研鑽は、提供するケアの質を担保する基盤となっています。

<工夫点>

食事は職員が毎食手作りし、リビングに調理の香りが漂う家庭的な環境を大切にしています。食材は委託会社2社のメニューを月単位でフロアごとに入れ替える工夫を凝らし、献立の変化を通じて飽きのこない食事を提供しています。また、おやつレクリエーションでおはぎや恵方巻などを共に作る機会を設け、行事食や手作りを通じた生活の楽しみにつなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまにある
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまに
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	アクア淵野辺としての理念を掲げて日々の生活支援を行い、電話連絡や広報を活用してご家族や後見人様などへ日頃の様子を知っていただいている。今後はご家族様のご理解が得られたら広報を自治会の回覧板等に入れさせて頂きたいと考えている。	事業所発足時の理念「尊厳・笑顔・向上心」を継続して掲げています。毎朝、職員は朝礼で理念を唱和し、利用者一人ひとりに寄り添った笑顔での声掛けを意識しています。排泄や入浴など日々の介護の場面においてもこの理念を反映させ、細やかな気遣いを持った支援につなげています。また、毎月の研修受講を通じて職員一人ひとりが向上心を持ち、自己研鑽に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	アクア淵野辺として山王自治会に参加し、定期的な地域清掃や自治会館での新年会。近隣の神社での初詣などをして触れ合いの時間が持てるようにしている。	近隣にある山王日枝神社の初詣や祭り、酉の市などの行事に参加し、地域との交流を図っています。散歩では都境の境川まで足を延ばし、屋外での気分転換や地域との接点を持つ機会を大切にしています。また、小学生が「町たんけん」で来所し利用者とは交流する機会も設けています。さらなる地域連携に向け、自治会回覧板へ広報誌を掲載してもらう方向で検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ過以降の活動は難しくなっているが、そんな中でも小学生の町探検(課外授業)の受け入れなど地域に開かれた施設になれるような関りを展開している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	基本2ヶ月に一度の開催で、地域包括、民生委員、自治会の方々が参加している。ご家族様の参加は1回。内容としては報告会になってしまっており双方のイベントに参加するなどはまだ出来ていないが、今後は参加出来ればと考えている。	運営推進会議を隔月で実施し、地域包括支援センター職員や民生委員、自治会、家族、利用者が参加しています。会議では活動報告や地域行事の情報共有、家族との意見交換を行い、相互理解に努めています。現在は、コロナ禍で中断していた災害訓練時の協力体制について、地域との連携を再構築するための具体的な協議を進める意向を持っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方がたくさん暮らしている中で、行政の方との連絡は密に取っている。	相模原市生活支援課と連携し、生活保護受給者の支援や空室状況の共有を行っています。市職員は毎年事業所を訪問し、利用者の生活状況を直接確認するなど連携を図っています。また、市内のグループホーム連絡会に年4回参加し、災害対策等の共通課題について情報交換や協議を行うことで、他事業所との交流や市との協力体制の構築に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	リスクマネジメントとしてのセンサーマットを除き、身体拘束がないケアを目指している。委員会は管理者とフロアリーダーの3名で3か月毎に開催し適正化を図っている。先日、相模原市の実地指導で議事録の観覧のみでなく他の職員もなるべく参加した方が良く指摘あり今後は他職員も参加できる体制を目指したい。	身体拘束を行わない介護を実践し、丁寧な声掛けやこまめな見守りによるケアに取り組んでいます。管理者とユニット長で構成される身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに開催し、拘束を必要としない支援の在り方を継続的に協議しています。また、年2回の職員研修に加え、チェックリストを用いた自身のケアの振り返りを行うことで、組織全体で身体拘束のないケアの徹底に努めています。	各フロアから委員を募るなど委員会の体制を整え、事例検討や共有の仕組みを強化することが望まれます。会議の成果を全職員に浸透させ、組織全体でケアの質を高めていく継続的な取り組みが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法定の研修として毎年実施し、委員会も3か月毎に開催されている。職員一人ひとりが自己覚知が出来てスキルアップが出来るよう目指している、またこちらも実施指導において新聞やTVなどで取り上げられた事件などを職員間で検討してみるなどのアドバイスをもらったので、虐待のない施設作りを継続したい。	虐待防止委員会を身体拘束適正化委員会と併せて開催し、組織的な防止体制を整えています。職員は業務動態表に基づき、虐待のない適切な支援の実施に努め、利用者ごとの支援内容を個人記録表へ詳細に記録しています。日中の様子や留意点は夜勤者へ確実に引き継ぎ、24時間を通じてトイレ対応等を含めた一貫性のある適切なケアが継続されるよう取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者はGH連絡会などで勉強しているが職員には特になし。職員各自が研鑽することに興味をもったり、次回の介護保険改正などで学ぶ機会が持てればと期待する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	エクシオジャパンの指針、アクア淵野辺の方針、重要事項説明書などを通して言葉と文字の両方で分かりやすい説明が出来る様に心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様から「いつもお世話になっていて」という事が多く、希望などはあまり聞かれぬ。施設側からの依頼や相談には清く受けて下さっている。玄関に意見箱も設置し面会時にも声をかけている。	毎月、利用者の様子を大きな写真で伝えるB3版の広報誌を発行し、各家族へ状況を報告しています。利用者からの生活機器の調整等の依頼に対応するほか、家族からの「屋外歩行」や「外食」といった要望に対しても、実施しています。日々の双方向のコミュニケーションを大切にし、利用者・家族の意向を汲み取ったサービスの提供に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	そういった機会はあまりない。	管理者は毎月のリーダー会議を通じて、利用者の状況や職員の動向を把握し共有しています。本年度よりフロア会議の運用を改め、アセスメントやモニタリングに現場職員の意見をより反映させる仕組みへと変更しています。また、職員が誕生会や季節行事の企画・運営を主体的に担当しており、個々のアイデアを活かしたレクリエーションを実施しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	急な人事異動などが多く、職員のやりがいに繋がりが弱くなってきている。職員不足でカイテクさんに頼っている。	管理者は働きやすい職場環境づくりに取り組み、日々の業務では定時での退勤がほぼ定着しています。限られた人員体制の中でも、介護職アルバイトを活用することで日中2名体制の維持に努めており、職員が協力し合っただけで安定した支援体制を確保できるように取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社で様々な研修を継続的に行っている。	年間研修計画を策定し、認知症ケアや虐待防止、感染症対策など、専門性を高める研修を毎月継続して実施し、職員の育成に努めています。外国人職員に対しては、きめ細かなOJTを通じて介護技術や調理方法の習得を支援しています。職員一人ひとりが介護福祉士資格の取得に向けて研鑽を重ねるなど、限られた時間の中でもスキルアップに取り組む環境を整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	相模原の仕組みのおかげでGH連絡会や協議会等で他法人の方々との繋がりが出来ている。ただ、職員のトレード現場研修などは実施出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の困っている事、悩みなどを丁寧に聞き取る。また、察する努力をする。信頼して頂けるよう対応を心掛ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の悩み事、困りごとを丁寧に聞き、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、家族としっかり話し合いを行い、必要なサービスが受けられるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事を手伝って頂いたり会話を通じて、信頼関係を築き、家族に近いような関係を作るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	往診後や体調変化時等、ご家族に連絡を取るよう努めている。面会などを通じて絆を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会や外出もいつでも対応出来るような支援に努めている。	利用者一人ひとりが大切にしてきた馴染みの関係を、本人や家族との対話を通じて把握するよう努めています。家族との連携を大切にしており、馴染みの場所への外出や外食を共に楽しむ機会を継続できるよう支援しています。また、本人の意向に沿って、スタッフが買い物に同行したり近隣の公園へ出かけたりするなど、地域社会とのつながりを保ち、自分らしい生活を送り続けることができるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の支援、レクリエーションなどを通して、職員とはもちろん利用者間でもコミュニケーションが図れるよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	窓口は開かれているが、行政手続き等もすべて終わるか関係性がなくなってしまう。グリーンケア行う機会がない。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的には利用者本位のケアだが、重度の認知症の方、転倒リスク防止としてどうしても家族本位でのサービスも入ってしまった。しかし、可能な限りアドボカシーが出来るように努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向を尊重するため、居室担当職員を中心に、日々の声かけや観察を通じてその時々を汲み取るよう努めています。認知症の進行に伴い、本人の意向を言葉で確認することが難しい場面では、家族の意向が優先されがちな側面もありますが、職員は常に「本人ならどうしたいか」を視点に置き、思いを捉え、支援につなげるよう尽力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から可能な範囲で聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	残存能力を活かし自由な生活の提供をしたいと考えているが、職員の不足などで思った時に思った事をやれない事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントやモニタリングは今までフロアリーダーか計画作成者が行っていたが、他職員の勉強もかねて6月から居室担当者に割り振り、担当者会議を行っている。	介護計画の作成にあたっては、計画作成担当者やフロアリーダーだけでなく、新たに居室担当職員も参画する体制を整えています。日々の生活を最も身近で支える担当職員が加わることで、細かな体調の変化や「食事にとろみをつける」といった具体的なケアの工夫など、利用者一人ひとりの実態に即した視点を計画に盛り込むことができています。多職種が連携し、常に最新の情報を共有しながらモニタリングを行うことで、より精度の高い支援につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を中心として、立ち話で出た本音(介護の手間)などが減るように考えている。ここ最近はLIFEのフィードバックも少しずつ活用できるように思索中		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状では難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	主な社会資源は提携の病院が中心となってしまうが地域包括さんがオレンジカフェなどが活用していけたらと考える。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療を中心に本人・家族が納得できる医療を提供できたらと考えているが、主治医が受診指示を出し、本人も希望していても家族がokを出さなくて受診に繋がられるもどかしさがある。	複数の提携医療機関と連携しており、日頃の情報共有を円滑に行っています。内科医による訪問診療を中心に、必要に応じて歯科や眼科等の専門医へもスムーズにつなげることで、多角的な健康管理を実践しています。受診にあたっては本人や家族の意向を尊重し、柔軟に対応する体制を整えています。また、通院は原則として家族が担うなどの協力関係を築き、健康支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	提携先の病院の看護師やエクシオジャパンの看護師と日々の相談が気軽に出来る関係性が気付いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の担当医師、看護師との情報交換に努め、利用者・家族の意向をもとに対応している。なかには家族の意向で長期入院する時もある。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人らしさ・希望の通りに旅立ちのお手伝いができるように可能な限り対応させて貰っている。	医師により看取りの時期であると判断された段階で、改めて本人・家族の意向を確認し、同意を得た上で「その人らしさ」を尊重したケアを実践しています。職員間で情報を共有し、家族の希望に寄り添っていつでも来所できる環境を整えるなど、最期まで穏やかに過ごせるよう支えています。また、大切な時間を共にした職員の心のケアも重視しており、葬儀への参列等を通じて見送りへの区切りをつけることができるよう配慮し、チーム全体で尊厳ある看取りに向き合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所やフロアなど目につく所に緊急時の対応マニュアル、緊急連絡網をもとに急変や事故のあった際には提携病院・フロアリーダーや管理者に報告。また誰もが出来るように研修もしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法定研修のみとなるが、BCP・火災・地震・感染症対策の勉強となるようにしているが、地域との連携まではまだパイプラインが整っていない。	各種マニュアルを整備し、研修を通じて防災意識の向上を図っています。地域住民や消防署と連携した避難訓練では、起震車による地震体験や煙体験、AED(自動体外式除細動器)講習を実施し、有事の際に的確に動けるよう実践的なスキルを磨いています。特に「一度避難したら再突入しない」といった人命優先の具体的な指導を共有し、常に安全確保を優先しています。また、非常食や飲料水の備蓄管理をし、更新時には利用者と共に試食を行うなど、日常の中で楽しみながら災害への備えをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者を一人の人間をして尊重し、相手の立場になり、誇りやプライバシーを損ねる言動に注意し、そのような場面を見た時に話せるような関係を目指している。	利用者一人ひとりの生活歴や性格を踏まえ、その思いを受け止めて支援しています。介助にあたっては同性介助を基本とし、身体的なプライバシーの確保に配慮しています。また、日常の言葉遣いにおいても否定的な表現を避け、たとえ話のつじつまが合わない場面があっても、その言葉の裏にある「伝えたい思い」を汲み取るよう努めています。常に本人の尊厳を意識し、一人の人間として敬意を持って接するケアを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の日常生活の選択から、イベント食や嗜好品の選択が出来るようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員体制やシフトによっては利用者優先のケアが出来ていない事が多い気がする。一日のスケジュールが決められてしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	持って来ている衣類に限りがある方の方が多いため、その人らしさに直結するかは不明だが、清潔であるように心掛けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な範囲で一緒に台所に立てるような工夫をし、調理は無理でも、片付けは出来るなど個人個人のADLや残存能力を活用できる様に心掛けている。	食材と献立をもとに、職員が手作り料理を提供しています。1階と2階で委託業者を分け、1ヶ月ごとに入れ替えることで、メニューや味付けに変化を持たせ、利用者が飽きることなく食事を楽しめるよう工夫しています。また、おやつレクリエーション等を通じて、焼きそばやおはぎ、恵方巻などを利用者と共に作る機会を設けており、季節感や「作る喜び」を感じられる食の支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のメニューに関しては配色サービスの管理栄養士・平均的な高齢者の1日に必要なカロリーをもとに一人ひとりの食事形態に合わせて提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に促しは全員にしているが、実施するかしないかは個人の自由でもあるので、うがいだけになってしまう方もいたりするが、夜だけは義歯は確実に回収できるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を参考に一人ひとりのタイミングをモニタリングして声掛けやトイレ誘導が出来るように心掛けている。	排泄記録を含めた生活記録表を詳細に作成し、一日の体温や食事の摂取量、水分摂取、排泄状況などを一目で把握できる体制を整えています。この記録を職員間で共有することで、誰もが利用者の体調を把握できるよう努めています。日中の活動量が少なくなりがちな面もありますが、記録から個々の排泄パターンを分析し、適切なタイミングを見極めてトイレへ誘導することで、できる限り自然な形での自立支援となるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	可能な範囲で日常生活におけるストレスを除き、水分や食事のバランス、適度な運動が出来るようにとは思っているが、緩下剤に頼っている部分が多い。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	最低週2回という回数での提供が限界で「毎日入りたい」や「夜に、寝る前に入りたい」という方の希望には添えていない。	週2回の入浴機会を通じて、安全かつ快適に清潔を保持できるよう努めています。1階には機械浴、2階には一般浴槽を備え、それぞれ一日3名の入浴支援を行っています。原則として同性介助を基本とし、身体状況に応じて2名体制での介助やシャワー浴の選択など、安全を優先し柔軟に対応しています。また、1階では名札の掲示、2階では名前入りマグネットによる管理を行うことで、入浴状況を確実に把握しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	声掛けをして安心して休めるように支援している。また夜間・日中も定時で居室にお伺いをして安全確認とさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の飲み忘れがないように、またしっかりと内服する事ができているかの確認をさせて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の談話から趣味活動・レクリエーションを通して、一人ひとりが楽しめるように支援をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望があった際には本人の能力に合わせて外出できてるような支援体制を整えているが、職員が集まる午後に限ってしまう。	日常的に近隣のコンビニエンスストアまで散歩に出かけたり、500mほど先にある境川まで足を伸ばしたりして、外の空気に触れる機会を大切にしています。また、季節ごとに桜やあじさいの花見、地域の祭りの見学など、複数回に分けて全員が車で出かけることができるよう計画を立てています。屋外の景色を楽しみ、季節の移ろいを感じる事が良い刺激や気分転換になると捉え、できる限り外出できるよう配慮しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の金庫またはご家族が代理で金銭の管理は行っている。本人の希望に合わせて出金してもらえようように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかける事は希望がないため、最近はしていないが、ご家族からの電話で利用者になることはたまにある。手紙に関しては親族から届いたりした際には本人に渡している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔を心掛け、季節が感じられるように飾りを変えたりしている。	日中は、利用者がリビングに集まり、お茶を飲みながら季節の壁飾りを制作したり、音楽鑑賞やトランプを楽しんだり、職員と共に思い思いの時間を過ごしています。くつろげるようソファを配置し、居心地のよさを保つため、利用者同士の相性などに配慮し、他者の視線が気になる人にはパーテーションを活用してプライベートな感覚を確保するなど、一人ひとりが自分らしく過ごせる空間となるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でも一人ひとりが自由に過ごせている。わるくいうと自分の世界を過ごしている。が好きに過ごせてもらえているので良いと思っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が自由にレイアウトをして楽しんだり、ご家族が使用していた家具を持参して下さったりしている。本人の承諾なくご家族が持ってきたがために「引っ越してない」とトラブルになってしまうことも少しあったが。	各居室のドアには視認性の高い大きい表札を掲げ、自分の部屋を認識できるよう配慮しています。生活環境においては、家族に用意してもらった防災カーテンやレンタルの介護ベッドを活用し、安全性を確保しています。また、立ち上がった際の転倒による怪我を防止するため、あえて居室の物を少なくして広々とした空間を保つよう工夫しています。さらに、転倒リスクの高い利用者に対しては、ベッド下に布団を敷いて万が一の衝撃を和らげる備えをするなど、安心感を持って過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できることを一緒に行い、安全に生活できるように支援しています。		

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	アクア淵野辺の理念があり事務所に掲示してある。朝礼で毎日唱和しており、理念をもとに日々の業務に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で減ってはいるが、自治会の行事に施設長が顔を出したり、地域清掃は利用者と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響もあり、地域の人々に向けて活かす機会はあまりない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	主に管理者が行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修を行っており、職員の理解、意識を高め身体拘束を行わないように努めている。また、3か月に1回委員会を開催し身体拘束等の適正化を図っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修を行っており、職員の理解、意識を高め適切な支援ができる様に努めている。また、3か月に1回委員会を開催し虐待防止等の適正化を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者や家族にとって良いサービスが提供できる様に、フォーマルサービスはもちろん、家族等によるインフォーマルサービスも含め、その人(家族)らしい時間が持てるようなサービス提供を心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明と意見を伺い理解、納得をしていただけるよう図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に意見箱を設置して、利用者様や家族からの意見が得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者のフロア会議への参加、定期的な面談などがある。意見が反映されるかはべつ		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社から専務が定期的に来て、施設(職員と利用者)の様子を見せ暮れている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法定の必須研修のみ	法定の必須研修のみ	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	本社にて法人内に限るが、別施設の方と研修することがある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人への要望の聞き取りを行いケアプランに沿って支援・コミュニケーションを図るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の要望を伺い、サービス内容に反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の潜在的なニーズに気が付けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることはやってもらうを基本にしている。ただ職員の都合優先で動いてしまう部分もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者、家族との絆を大切にしながら、その方の支援をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の生活歴を把握し、故郷の話題、趣味、活動をレクリエーションの場で提供していくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様が孤立しないように、気の合う人の隣に席を調整したり、一緒にいられる配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用の終了をせざるをえない場合も最大限に適切な誠意ある対応を心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話をよく聞き、一人ひとりの希望や要望、意向を把握し入居者様本位を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やケアマネジャーからの話で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェックや食事・排泄・睡眠・体重などをしっかり記録に残し、健康状態を常に把握したうえで、利用者様一人ひとりにあったケアを行っている、送りノートを作成し職員間で情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月、カンファレンスを実施、職員全員で意見を出し合いアセスメントを抽出し、本人にあったケアプラン等を作成、日々の状況に応じて対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、個人記録、支援経過、送りノートで情報共有し、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状況、ご家族の状況の変化に対応できるように話し合いを持ち、ご希望に添えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ以降、外食などはしていないが、出前を頼んだりしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人やご家族の意向を配慮し、医療的なケアが受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は利用者様の小さな変化に気付けるようにし、訪問診療や訪問看護がある時に相談出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際ご家族からの情報や病院側の情報をもとにニーズの把握や支援内容の再検討を職員全員で臨機応変に働きかけられるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	嘱託医やご家族と話を定期的に行う事で、本人の意思が確認できない場合には、想定意思決定が出来るように施設全体で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修にて実施している。急変や事故に対するマニュアルをフロアに掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、日中と夜間を想定しての避難訓練を実施している。自治会等の地域との関係性も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修にて勉強会を行い、日々のケアで本当に尊厳が保てているかの自己覚知に励んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者から発言があった場合には可能な範囲でその場で実施できるようにしている。散歩とか入浴希望になると午後まで待ってもらうというのが現状		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り利用者本位のケアをしているが、時間帯や職員によっては職員本位になってしまうのが現状		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で出来る方は自分で行っている。ADLの低下や判断力の低下が激しい方には一緒に行ったり、本人らしい物を職員が代理で行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に集中できるように、テレビを消し空間の共有が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1階と同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	1階と同じ		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意・便意がある方は日中に限っては可能な限りトイレへ誘導し落ち着いて排泄できるように支援をしている。夜間は希望時のみで睡眠を優先している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	基本的に加齢に伴う内臓機能の低下が原因、しかし運動不足もあるので、そちらに関しては可能な限り支援で解決できると思われるので散歩等の活動を多く出来ればと思っている。涼しくもなってきたので。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望のタイミングには合わせられていない。スケジュールが決まっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりが安心して休めるような空間づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情を参照し理解に努めると共に、薬の管理は職員で代行で行い飲み忘れ防止の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	残存能力を活かし、ライフストーリーを理解した上で職員も一緒に楽しめるような支援を心がけている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人から希望があれば行っているが、利用者から外出の希望が出てくる事はなくなってきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	1階と同じ		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	1階と同じ		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔な空間提供に心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとり自由な時間を過ごされている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1階と同じ		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1階と同じ		

2025年度

事業所名 アクア淵野辺グループホーム

作成日： 2026年 3 月 24 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	急な人事異動などで、落ち着かない環境の中で、職員のやりがいを見つけることが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の安定。落ち着いた環境の中でチームケアを学び、やりがいに繋げる ・職員間での信頼関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・人事異動については本社総務にも相談しながら、対応を検討する。 ・職員間での話し合いの機会を増す。 ・個別の面談も行い職員の現状を把握し問題があれば、解決出来るように務める 	10ヶ月
2	21	職員不足や感染症の心配から、入居者様の希望される外出の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランにさんぽ、外気浴と計画されている方は、可能な限り実施する。 ・その他の方に関しても1週間に1、2回程度の外気浴を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の日用品の買い物は、職員と一緒に買い物に出かける等予定を立てる。 ・ちょっとした隙間時間にも外気浴を取り入れる習慣をつける（外出のハードルを下げる） 	3ヶ月